

2. 事業の概要と成果

	上位目標：パレスチナにおける初等教育の質的向上、児童の基本的な学力向上。 <u>初等教育の質的向上</u> 公立学校 8 校の教員及び校長を対象に研修を実施した。 教員研修に参加し補習授業も担当した 32 人のうち 18 人が、新たな教育方法に精通しており、残り 14 人も十分習得していると専門家は評価している。また一年次から継続して参加した教員全員が継続して参加型授業を実施していると評価された。さらに、研修を受講した教員の授業見学や教材展示が各校で行われ、対象校 8 校の教員 233 名に参加型授業の手法を紹介し、広く普及することができた。 参加型学習教授法のマニュアルの配布や地域に開かれた教材の展示会を実施して成果の普及に努め、地域全体の初等教育の質向上に貢献した。 <u>児童の基本的な学力向上</u> 補習授業で集中的にインプットしたことで成績の向上に繋がった。学年末テスト結果を前年と比較すると、二年次から新規参加の児童は 4 科目平均で 13.3%、一年次から継続参加の児童は 3.1%向上していた。 補習授業でゲーム等参加型を用いたことにより学習への親近感ができたことで児童の学習意欲が高まり、以前よりも学校が好きになったという児童が多く見られた。また別途実施した「スキルテスト」や日常的な小テストの結果も基礎学力が向上したことを裏付けている。
(2) 事業内容	(ア) 補習授業 1. 補習授業の実施 - 対象者：4～6 学年に在籍する公立小学校 8 校児童 480 人、2 児童館の児童 107 人の合計 587 人。 - アラビア語、英語、算数、理科の 4 科目の補習授業を行った。児童は一日 2 科目ずつ受講。 2. 児童の個人ファイル作成と管理 - 児童の学習経過を把握するため個人ファイルを作成し、学校のテストや補習授業の様子、小テストを教員と指導員が記録した。 - 教員と保護者のミーティングを 7 ヶ月間で 79 回（8 校計 51 回、2 児童館計 28 回）実施した。 <u>備考</u> 児童館において、転居や家庭の事情のため、事業途中で児童の入れ替りがあった。 保護者ミーティングは 9 ヶ月間実施の予定であったが、7 ヶ月間の実施となった。新学期で教員の通常業務が多忙で 9 月に実施できず、1 月は学期末テストの採点や冬休みがあって教員の時間がとれなかったためである。 (イ) 人材育成と学校設備支援 1. 教員研修の実施 - 参加者は計 48 名で、うち 32 名が補習授業を担当した（手当有）。また 1 年次から継続の教師は 17 人、新規参加教員は 15 人であった。 - 研修内容としては参加型学習指導法、および教科教授法であった。新規参加者研修を 18 時間実施し、一年次から継続の教員に対しては、リ

	フレッシュャー研修を 18 時間実施した。 - アラビア語、英語、算数の教員 36 名に、教科別研修を 27.5 時間実施した。理科教員 12 名の教科別研修には日本人専門家を講師に招き、33 時間の研修を実施した。 8 名の校長に対して、参加型学習の指導法やマネジメント（教員間のスケジュール調整、教員ミーティングの実施、教員への助言、資機材の管理）に関する校長研修を 6 時間実施した。 - リフレッシュャー研修を受講した教員 3 名が他の教員に対してワークショップを実施し、研修を受けていない教員に参加型学習を普及した。 2. 学校設備支援による教員環境改善 - 対象 8 校において、補習授業で使用する教室・理科実験室・図書室に、椅子、ホワイトボード、教材本、本棚、理科実験器具などの資機材を供与した。（修繕と供与資機材の詳細は別紙 4 を参照） - ニーズ調査後に必要と判断された 7 校において、理科室の修繕を実施した。 - 対象校 8 校の校長に対して、資機材の適切な管理についてワークショップを行った。 3. 教材開発 - 研修で学んだ内容をもとに教員が参加型学習教材を作成し、補習授業や通常授業で使用了。 - 教員らが作成した教材の作成法や使用法を他校の教員や教育省に普及するため、教材発表会を実施した。 - 参加型学習の指導法に関するマニュアルを作成して、他校や教育省に 2400 部配布した。（別紙 5） (ウ) 課外活動 1. 課外活動 - 児童館の児童 100 名を対象に、レクリエーションやアート等の自己表現活動を日常的に行った。また、学校の児童 480 名を対象に、同様の活動を各校で一回実施した。 - 児童 580 名を対象に遠足を実施し、全員が 2 回遠足に参加した。 2. 家族向け支援 - 課外活動に参加する児童の家族と指導員が 22 回ミーティングを実施し、児童の様子について情報共有を行った。
(3) 達成された成果	- 補習授業 - 参加型学習の実施により児童の学習意欲が向上した。現地専門家レポートによると、補習授業を担当した教員の 9 割が、児童の学習態度が改善していると報告している。また、補習授業に参加した児童の 9 割が以前よりも自信を持つことができ、自尊心を持つようになった。 - 補習授業に参加して以降、児童が以前よりも学校を好きになるなど、良い方向に変化していると多くの保護者が感じていることが分かった。特に補習授業内で取り入れられた「Small Teacher」は、児童が先生役になって他の児童に教えるというアクティビティで、学習の理解だけでなく、児童の心理状態にも良い影響があった。 - 参加児童の個人ファイルを作成し、教員が児童の学習経過を把握し、個別サポートに活かす仕組みを作った。 - 二年次から新規で参加した児童は、前年と事業開始後の学年末テストを

比較した結果、4科目平均で13.3%向上した。一年次から継続して参加した児童は、4科目平均で3.1%向上しており、1年次終了時の成績を維持することができた。

- ・ 参加児童の8割で、学年末試験の成績が向上したか、維持することができた。
- ・ 2割の児童（主として2校に集中）に関しては、前年度に比して同試験の成績が下がった。その要因としては、教員のパフォーマンス低下や児童集団の不安定さを招く何らかの原因があったとみられる。
背景として、2校とも2年次途中から教育省の人事異動で校長が変わったこと。
2校は生活状況の厳しいハンユニス地区の中でも特に貧困地域にあり、ガザの経済状態が急激に悪化する中でその影響が甚大なこと。
ガザでは停電が続いているが、2校のある地域では自家発電機を持つ家庭が少なく、家庭学習がほとんどできなかったこと。
また、成績向上がプレッシャーとなって教員や児童を圧迫したことも推測される。
- ・ 学年末試験は量と速さを要求するものであり、当事業が目的とした児童参加型学習とは必ずしも合致するものでないため、理解はできても、練習量等が追いつかなかったことなども考えられる。
- ・ 現地専門家が実施した参加全児童への実力テスト（「スキルテスト」）や定期的な小テスト、教員への聞き取りからは、学年末試験の成績が下がった学校の児童も、理解度や積極性が向上していると判断できるからである。補習授業内で実施した「スキルテスト」では、教科・学校によって差があるものの、7～9割の児童が当該学年で学習する内容を理解できていると判断された。（詳細は別紙「1 補習授業」参照）
- ・ 学力評価にはもちろん長期的なフォローアップが必要であり、本事業に参加した児童の学力が今後も向上するとは言いきれないが、児童が学習を意欲的に継続する契機となっており、長期的なインパクトがあると考えられる。
- ・ 保護者ミーティングに参加したことで、保護者の教育意識が向上し、児童の様子を気にかけて積極的に家庭学習のサポートをするようになった。

備考

- ・ 成績の比較については、一年間継続して補習授業に参加した児童のみを対象としている。そのため、活動内容に記載された児童数とは異なる。
- ・ **人材育成と学校設備支援**
- ・ 二年次から研修に新規参加した教員全員が、参加型学習の指導法を習得していると判断された。また参加者の半数以上が参加型学習の指導法に精通しており、残りの全員も十分に習得したと評価された。
- ・ 研修では、教科教授法だけではなく児童との適切な関わり方も習得することができた。現地専門家によると、補習授業に参加した児童は以前よりも教員に対して親しみをもち、安心して授業を受けられるようになった（ガザではいまだに教員の暴力・暴言などが広く見られる）。
- ・ 一年次から継続して研修に参加した教員全員、参加型学習の指導法を習得しており、その実践を継続していた（詳細は別紙「2 教員研修」参照）。
- ・ 現地スタッフが、研修翌週にモニタリングで各校を訪問した際に、研修で学んだ新しい指導法を用いて補習授業を行っている様子が確認され、研修に対する満足度の高さが伺われた。
- ・ 教員パフォーマンス評価は補習授業を対象とし、通常授業については十分に検証するまでにはいたらなかった（通常授業を評価のためにモニタ

	リングする許可が出なかったため)。また参加者の中には研修で学んだ指導法を通常授業に適用するのが難しいと感じている教員も見られた。多くの教員が、参加型学習法を通常クラス全体という多人数相手に応用するにはまだ至っておらず、今後そうした研修機会の必要性がある。 ・ 設備支援として、理科室修繕を実施したことで、ガス・水道等が完備された理科室でカリキュラムにある実験が実施できるようになった。また、老朽化した机や電気系統を修復したことで、児童が安全な環境で授業を受けられるようになった。各校の校長の聞き取り調査では理科室修繕への満足度は高く、補習授業だけでなく学校の全児童が使用できるので、学校全体の学習環境に良い影響があると評価された。 ・ プロジェクター等の視聴覚教材の供与によって、児童が五感を使いながら学ぶことができ、理解しやすい授業を実施できるようになった。 (修繕状況および供与資機材一覧に関しては、別紙参照) ・ 校長研修によって対象校の参加型学習に関する知識や校内マネジメントスキルが向上し、日常的に互いの授業見学を行うなど、研修を受けた教員から他教員へスキルを伝播する機会が増えた。 ・ 参加型学習指導法に関するマニュアルを 2400 部作成し、教育省や地域の学校・教育団体に配布し、教育省スーパーバイザーを招いて研究発表会を実施したことで、成果を地域に広く普及することができた。(成果物 DVD 参照) ・ 課外活動 ・ 課外活動に参加した児童は学習へのモチベーションを維持することができ、補習授業に継続して参加することができた。その結果、補習への出席率は 97.8%、8 校平均で 98.5%、2 児童館平均で 94.8%に達した。 ・ 聞き取り調査では、保護者全員が課外活動の内容や効果に満足しており、課外活動への参加が学習態度の改善に良い影響を与えていると感じている。 <SDGs との関連> ・ 児童や教員の選定には、男女差がないよう配慮した。またハンユニスでも貧困世帯が多く暮らす地区の対象校を選び、脆弱な立場にある児童が補習授業に参加できるようにした。これらは、目標 4.5 と合致する。 ・ 劣化が進んだ理科室の修繕を実施し、児童が安全な環境で理科実験を含む効果的な学習を進められるようになった。これは目標 4. a と合致する。 ・ 参加型学習に関する教員研修を実施し、教員が効果的な指導法を習得したことで、目標 4. c の実現に貢献した。
(4) 持続発展性	・ 教員らは研修で習得した新しい指導法の効果を実感したことで、指導への意欲が向上しており、今後も継続して自己研鑽を積むことが見込まれる。また、学校を超えた教員間ネットワークが構築されたことで、事業終了後も情報交換を行いながら、指導スキルを向上させていくことが可能になった。 ・ 教員研修では、安価な材料で作成できる補助教材の作り方や、身の回りにある材料で実施可能な理科実験方法を紹介しており、事業終了後も教員が自主的に研修で学んだ内容を授業で継続することが見込まれる。 ・ 参加型学習に関するマニュアルを作成・配布し、いつでも参照できるようにしたことで、事業終了後にも教員が参加型学習の手法を取り入れた授業を継続できるようにした。 ・ 校長研修でも参加型学習について学び、教員の授業をモニタリングすることでその効果を実感しているため、今後も校長を中心に学校全体で参

加型学習の取り組みが進められることが見込まれる。

- ・ 資機材管理に関する研修で、校長に適切な備品管理法を指導したことで、すぐに破損することなく今後長期間使用できるように体制を整えることができた。特に、破損しやすい理科実験器具は、本事業で提供した鍵つき備品管理庫で保管されており、実験器具が壊れることなく長期間使用できるよう配慮した。
- ・ 現地教育省に事業の成果を周知し、参加型授業についての理解を得られたことで、参加型授業をガザ地区で推進する土台ができた。提携団体から教育省に働きかけ、将来的に参加型授業に関する教員研修やカリキュラムへの反映につながることが期待される。
- ・ 研修と補習授業での実践の結果、通常授業でもグループワークの活用など一部の参加型学習の指導法が取り入れられたが、十分に活用されたとは言い難い。児童の学習理解を定着させるには通常授業でも効果的な授業を行うことが不可欠であり、今後は通常授業での実践を進めていくことが必要である。

また、成績が向上した児童が、事業終了後もそれを維持し発展させるための取り組みを作る必要がある。